

平成30年度 学校関係者評価 学校名

熊野市立五郷小学校

2019.3.13

学校教育目標
めざす子ども像

学校教育目標 「豊かな心と確かな学力を備え、しなやかに生きようとする子の育成」
めざす子ども像 (1) 自分も人も大切にす子 「心豊かな子」 (2) 進んで学習し、考えて行動する子 「学ぶ子」
(3) 地域に誇りと愛着を持つ子 「五郷の子」

評価日	評価者	関係者評価 参加者名	13名
平成31年3月13日	五郷小中学校 学校運営協議会委員	①【会長】舩屋洋子、②【副会長】増田幸美、③徳田靖児、④久保八代美、⑤倉本禎志、⑥古田祐三子、⑦吉田和男、⑧浦狩 誠、⑨前川ルミ	五郷小学校長・教頭 五郷中学校長・教頭

重点目標	具体的行動計画	到達度のわかる目標	目標の達成状況	学校自己評価	学校関係者評価
				【○成果と▲課題 ◆は本年度のまとめと来年度に向けて】	
児童生徒の 安全安心と 豊かな心の 育成	(1)防災体制の確立と防災教育・安全教育的の推進 ①自分の身は自分で守ることができる児童の育成。 ②地域防災組織、及び小中の連携を深めた安全・防災学習の推進。 ③教職員の意識高揚と安全点検や危機管理マニュアルの充実。	・地域、保小中合同の救急救命法講習会、防災学習会の開催。(各1回) ・避難訓練(地震3回、津波1回、火災1回) ・交通安全教室、防犯教室、薬物乱用防止教室の開催。(各1回) ・防災学習の研修と実施。校内安全点検。 ・児童、保護者、教職員アンケートの結果。	A	○地域・保小中合同の救急救命法講習会と地震体験車を含む防災学習を実施。 ▲平日開催でもあり地域住民の参加は多くない。 ○避難訓練(地震3回、津波1回、火災1回)、消防教室(1回)防犯・交通安全教室(1回)、薬物乱用防止教室(5,6年中学校に参加)を実施。 ○9月に校内で「防災用品」の展示と学校だよりで家庭での防災への啓発活動。 ○児童アンケートで「自分は火事や地震が起きた時どうすればよいかわっている」の項で100%の肯定的評価(4段階評価A75%、B25%)。 ○保護者アンケートで「学校は子どもの安全確保のための対策に努めている」の項で100%の肯定的評価(4段階評価A40%、B60%) ▲教職員アンケートで「緊急・非常時の対応の共有」の項で、B評価が多い。Aが見つほどの自信はないという傾向がある。 ◆安全教育については、年間計画にそって、避難訓練やその他の体験的を伴う防災学習を進めることができ、児童アンケートの結果も良い。 ◆来年度も「自らの身を自分で守る力の育成」をねらいとして、工夫した防災学習を展開をする。特に、他人事ではなく自分の身・家族・学校・町に大地震をはじめとする災害が今日にでも起こることを意識し、家庭や地域と連携して事前に行える事はすべてやっておく必要がある。 ◆県教委発行の「防災ノート」をもと活用しながら、学校全体で計画的な防災学習を進める必要がある。 ◆未然防止の観点から、危機に対する教職員の意識・情報共有をさらに密にする必要がある。例えば、職員個々が日頃気づいた児童の危険な行動や危険箇所等について、すぐに職員室で発信し共有するなど。また具体的な危機を想定した組織的な訓練で個々の職員のスキルアップと組織力の強化に取り組む。	◇3月12日に発生した地震時の対応や児童生徒の様子についての質問に、普段の訓練や地震時の様子について具体的に説明。訓練の成果が出ておりきちんと対応できているとの評価をいただく。 ◇防災訓練や学習への地域住民の参加については、休日に行うと参加率も上がるだろう。ただ、県講師や地震体験車の派遣については土曜授業日等に集中するため難しい面もある。学校・地域・家庭の連携が大切である。運営協議会とも連携しながら、土曜授業での開催の方向を探るなど工夫する。 ◇学校自己評価結果に沿った評価をいただく。
	(1)道徳性や人権意識の育成と仲間づくり ①豊かな人間性を育む道徳授業を推進する。 ②人とつながる力やコミュニケーション力の育成。 ③いじめや暴力のない「明日も来たいと思う」安心で楽しい学校づくり。	・道徳の教科書や人権学習教材による授業を実施(各学級週1時間) ・子どもたちの活動に「出番・役割・承認」を意識した場を設ける。 ・授業の中に、友だちの良さに気づいたり、仲間と協力して活動したりする場の設定。 ・全校活動における全児童の「ふり回り」時間の設定。(毎回) ・他校との交流会の設定。 ・児童、保護者、教職員アンケートの結果。	B	○児童アンケートで「学校では自分を大切にすることを学習している」「自分は友達に親切にしたり仲良くしている」の2項で8割以上の児童が肯定的評価(4段階評価AまたはB)。▲ただし、1名の児童が「C.あまりあてはまらない」と回答。 ○保護者アンケートで「学校の人権教育」といじめを許さない仲間づくり」の2項で8割以上の肯定的評価(AまたはB)。▲ただしB評価も多い。 ▲教職員アンケートで「人権学習の推進」については全員がB評価で、A評価はなし。また、日常場面での児童の人権意識や教師の指導についてはB(5人、C3人)という状況。 ▲教職員アンケートの中に「子どもたちが人権について自分事として捉えられようになってほしい」「日常生活の言動に対し、人権の視点で指導することが必要」「子ども同士で心から承認できる環境づくりをしたい」「出番・役割・承認のサイクルが弱くなっている」という記述意見がある。 ○他校との交流については、今年度その機会を意図的に多く持った。大人数での活動は人間関係のつくり方、集団での責任感等、子どもたちに取って大変よい効果をもたらした。 ◆学級や学校が極少数であるため、人間関係づくりや人権感覚の醸成にとっては不利な環境であると考えられる。また、教職員側も、子どもたちの日常の発言や行動の中に人権や仲間づくりの観点から問題を感じても、少数であるがゆえに大きな問題に至らないため、深く切り込むことなく見過ごしてしまうことも多いのではないかと課題もある。 ◆来年度は、児童の人権感覚高めるとい共通理解のもと、日常生活のあらゆる場面を通して、また、人権学習の年間カリキュラムを通して、人権や仲間づくりの課題を重点課題として取り組む。また、行事やその他の学習活動においても、人権や仲間づくりの視点から児童につけたい力を明確にし取り組む。 ◆他校との交流については、児童の成長にとって大変効果的な活動であるため、次年度も推進する。	○少人数の限られた児童の中で、他校との交流や地域との交流、また普段からのコミュニケーション能力の育成等、工夫した取組を行う。 ○児童・保護者にとっては、いじめのない毎日が楽しい学校が一番大切である。少人数の強みを活かし、子どもの様子を学校、家庭、地域で見守り、問題については早期発見・早期対応をする。 ○人権教育については、学校と家庭が連携し、日常生活の様々な場面で取り組んで行くことが大切である。 ○一つの課題として来年度重点項目として取り組む。
確かな学力の育成	(1)学力向上の推進と「活用する力」の育成 ①授業研究を核とした子どもも自らが考える授業づくりと効果的な複式授業スタイルの構築。(めあて振り返り、複式授業の研究、自主学習能力の育成) ②外部講師(指導主事等)を招聘した校内研修の充実。 ③小中9年間の繋がりのある学びの構築。 ④学調(6年)みえスタディチェック(5年)で全国・県平均以上を目指す。	・一人年間1回以上の授業研究(のべ3回) ・外部講師を招聘した校内研修会(6回以上) ・小中合同研修会の開催。(合同研究授業、一貫カリキュラム等の作成) ・全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックにおいて、全国平均や県平均以上。 ・児童、保護者、教職員アンケート結果。	A	○授業研究を核とした計画的な研修が実施できた。【教員一人1回の研究授業(指導主事招聘)の実施。夏休中、外部講師による複式授業スタイルの研修会の実施。その他校外における授業研究会や研修に多数参加。】 ○教職員アンケートより、「基礎・基本の定着に向けての児童個々に応じた指導」「複式授業の工夫・改善」の2項で8割以上の肯定的評価。 ○児童アンケートより、「先生は分かり易く勉強を教えてくれる」の項で8割以上の肯定的評価。 ▲児童アンケートより、「一つの教室で他学年と同じでも集中できる」の項で、約3割(4人)が「あまりあてはまらない」と回答。 ▲児童アンケートより、「授業中しっかりと話を聞き、積極的に考えようとしている」の項で、25%(3名)が「あまりあてはまらない」と回答。 ○保護者アンケートより、「子どもは授業が分かり易く楽しいと言っている」「授業(複式)に工夫が見られ、他学年と同じでも集中している」の2項で8割以上の肯定的評価。 ○小中連携の中で、5、6年生が、英語と体育で毎時間、五郷中で専門の教科の先生の指導を受けている。体育については中学生と一緒に運動をしている。ともに専門的な指導を受けたり人数が増えるなどで児童の意欲も増している。 ○小中教職員による合同の授業研究や小中9年間のカリキュラムづくり、合同県外視察を行っている。 ○全国学調では国数ともB問題で全校を上回る。A問題はやや下回ったが熊野市平均は上回る。みえスタディチェックでは三重平均を大きく上回る。 ○全国体力運動能力調査では、全国の平均を上回る項目が多い。 ◆個々の児童への学力保障が使命であることを意識して本校の教職員は日々取り組んでおり、研究主任を中心に校内・校外研修も計画的に進められている。極少数の複式授業が本校の特徴でもある。複式授業における五郷スタイルの構築に取り組んでいるが、まだ完成したものではない。来年度も複式における児童の自学や学習リーダーの育成を含めた効果的な五郷スタイル授業の研究を積み上げる。また、授業研究においては新学習指導要領のポイントを意識しながらテーマを絞って行う。 ◆どの学級でも日々落ちていて授業を受ける姿がみられる。個々の児童の学力については、個人の特性もあるが、学力テスト等の結果から一定の力はついていると思われる。さらに学力テストの結果の分析から児童の強み弱みを明確にし、学力の向上に努める。	○昔はクラスの人数が多く先生が目も行き届きにくかったが、今は児童数が減り日々の授業で先生が一人ひとりの児童を丁寧に見てくれている。 ○その反面、少数であるため競争意識に欠けると考えられる。競争意識も大切である。 ○少人数の良い面と悪い面があると思うので、強みと弱みを十分理解して実践にあたるのが大切である。 ○授業研究をはじめとする教職員の研修体制や児童の学力、小中の連携については、概ね理解と評価をいただいた。

<p>確かな学力の育成</p>	<p>(2)特別支援教育の充実 ①個々に寄り添った学習や生活支援の研究と支援会議の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援会議の充実。 ・SC(スクールカウンセラー)や外部機関との連携。 ・児童、保護者、教職員アンケートの結果。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートで「先生は自分の事を良く分かってくれている」の項で100%の肯定的評価。 ○保護者アンケートで「学校は子どもをよく理解しようとしている」「学校は一人ひとりの良さを認めている」の2項で100%の肯定的評価。 ○特別支援学級における個別の支援・指導計画を定期的に見直し、日々の支援についても全職員で共有しながら評価→改善を行っている。 ○SC(スクールカウンセラー)や外部機関(社会福祉士・特別支援教育士)と連携し定期的に児童の授業や生活の様子を参観してもらい、担任及び全職員でその見立てや助言について共有し、その後の指導に役立っている。各1回の全体研修会も開催した。 ◆全校児童12名という少人数の強みを活かし、全職員で個々の児童を見ていこうという教職員の意識がある。また、児童への支援については全体で課題把握→支援計画→実践→評価→改善のPDCAのサイクルができており、その成果(児童の成長)も見えている。 ◆児童の生活や学習支援に関わる月1回の定期的な校内委員会を開催したかったが、定期的な開催ができなかったため、来年度は開催したい。 ◆特別支援学級以外でも支援が必要であると思われる児童については、個別の支援・指導計画を作成していきたい。 	<p>○一人ひとりを大切に、個々の児童の良い所を伸ばしてやって欲しい。</p> <p>○この項についても、少人数の強みを活かし、一人ひとりの児童生徒の事を良く見て、丁寧に指導してもらっている。という評価をいただいた。</p>
	<p>(3)家庭学習と読書の習慣化 ①家庭と協働して学習習慣の定着を図る。 ②考える力を伸ばすため読書活動や図書館教育を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童、保護者、教職員アンケートの結果。 ・家庭学習や読書活動の取り組みの実態。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ▲児童アンケートで「家で進んで宿題をやっている」の項で25%(3人)が肯定的でない評価(4段階評価のC/D)。 ○保護者アンケートで「学校は宿題を適切に与え、家庭学習の充実に工夫をしている」の項で9割が肯定的評価。 ○読書については市立図書館のボランティアによる「読み聞かせ」を学期に1回企画し実施した。(年3回)また、朝の読書タイムを各学年で10分間設けている。 ▲低学年は図書館で本を借り読書も進んで行く様子が見られるが、高学年になるほど読書離れの様子が見られる。 ◆宿題を出したり宿題の点検などは、複式学級であるため、担任にとっては負担もあるが、その分少人数であるため細やかな対応はできる。 ◆児童アンケートにあるように積極的に家庭学習を進めようとする意識は低い傾向がある。また、保護者についてもずっとついて見守ることは難しさもあるようである。しかし、学校での学習と家庭での学習は学力向上の両輪を成すものである。特に中学校、高校へと進学すればするほど、家庭学習の重要性は増す。また、家庭学習の少なさは全国的にみても三重県全体の課題でもある。 ◆将来的なことも見据え、読書も含めた家庭学習の習慣づけは、小学校段階から計画的に進める必要があるし、その内容についても学年が上がるにつれて与えられた課題をこなすに留まらず、自主的な学習(自学)に転換していく必要がある。このような視点を家庭とも共有しながら進めていきたい。 	<p>○生涯にわたって読書することは大切である。小中学校でその習慣をつけたい。</p> <p>○自分で読書したり、勉強する力をつけることが大切である。そのためには、読書や勉強の面白さを感じさせることが大切である。</p> <p>○課題に対して、家庭とも協力しながら工夫した取組を進めたい。</p>
	<p>(1)地域に愛着を持つ子どもの育成(児童) ①地域の人の出会いや人々の思いや願いを知る機会の設定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を知り、地域で学ぶ機会の設定(各学級学期1回以上)。 ・「生活科・総合的な学習の時間指導計画」に沿った地域学習(五郷学習)の実施(学期に1回以上)。 ・児童、保護者、教職員アンケートの結果。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○米作り体験、茶摘み体験、環境学習、昔遊び、運動会、文化祭、収穫祭等、地域や保護者の方にお世話になりながら、様々な体験学習を実施した。 ○保護者・教職員アンケートで「地域学習」や「地域との交流」の項で100%近い肯定的評価。 ▲児童アンケートでは「地域に出かけたり、地域の事を学習している」の項で肯定的でない回答が33%(4名)。 ○ただし、児童アンケートの「地域学習はためになり面白い」の項では80%をこえる肯定的評価。 ◆地域に愛着と誇りを持つ子を地域との連携の中で育てることが本校の大きな目標の一つであり、たくさんの地域性を活かした活動を実践している。また、これらの取組は五郷小中学校(連携)の大きな特色でもあり、今後も推進していく。 ◆ただ、子どもたちの評価が思ったより低いのが気になる点である。マンネリ化したり、大人主導で子どもが置き去りになったり、過度な負担にならないように十分気をつける必要がある。 ◆今後の活動の視点として、与えられた学習だけではなく、地域学習で得た知識や技能を子どもたち自身が「活用」していく学習が大切になってくると考える。 	<p>○「地域に出かけたり、地域の事を学習している。」の項の児童の評価が低いのは気になる。地域学習については地域としてこれからも協力したい。反省にもあるようにマンネリ化や子どもたちの意欲が低下しないように取り組んで行かなければならない。</p> <p>○今後も学校と地域が連携し、地域が一体となって五郷の子を育てたい。</p>
<p>開かれた学校づくり</p>	<p>(2)地域との繋がりを大切にした教育活動(教職員) ①運営協議会の充実と地域と学校が一体になった学習。 ②小中一貫教育を目指した小中と運営協議会の連携。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中連携型運営協議会の開催(年3回) ・小中一貫教育を目指した取組。 ・英語の出前授業や体育(ダンス)の合同授業を実施(英語は年10回、体育は年5回以上) ・児童、保護者、教職員アンケートの結果。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会を年4回、その他保護者説明会を年3回開催。特に小中一貫教育推進に関わって丁寧に説明会を開催した。 ○小中一貫教育を見据えて、小中合同の研修会や授業研究会を年間を通じて7回開催した。また、小中合同の小中一貫校の先進校視察を1回実施。 ○5、6年生の英語と体育については、毎週中学校で、中学校教員による授業を受けた。 ○小中の研修(研究)の成果として、小中一貫校としての「目指す生徒像」「9年間のかりかキラム」「各分野での年間指導計画」等の作成等を行った。 ◆地域の特性を活かした五郷学習を中心に年件を通して小中連携が図れている。また小中学校を核とした地域づくりにも貢献し、お互いが良い関係である。 ◆小中及び地域一体型の農業体験、地域学習、運動会、文化祭、収穫祭等の五郷学習や行事は、地域の方や保護者は極めて好意的に学校に協力してくれ、五郷小中の特色ある取組である。今後も地域の方を借りながら進めたい。 	<p>○コミュニティスクールについては、1年目でもあり地域にまだ浸透していないが、今年定期的に発行した「たより」等を通して、樹所に地域にも浸透していきたく。</p> <p>○小中一貫も含めて、これまで培ってきた小中の連携は、地域連携とも併せて、これからも深めていく。</p>
	<p>(3)情報発信(保護者・地域へ) ①学校・保健・学級だよりやHP(ホームページ)等を通して、学校や子どもたちの様子を発信。 ②報道機関(新聞、テレビ)の積極的な活用。 ③学校自己評価、関係者評価の充実。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たよりやHPを利用した積極的な情報発信(学校だより:月1回、HP更新:月1回) ・授業参観や地域連携行事の開催。 ・新聞、ZTV等を活用した情報発信(年間10回) ・児童、保護者、教職員アンケートの結果。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校だより(年間16号)、保健だより(年間20号)、学級だより(多数)の発行。 ○HP(学校ホームページ)は月1回の更新。 ○新聞、ZTV等の活用(新聞は各行事多数、TVは収穫祭) ○授業参観(各学期に1回と収穫祭打合せ時に1回、計3回) ◆情報発信は各学級・学校全体で意識し、計画的に進めた。来年度も意識して情報発信は充実させる。 ◆運動会、収穫祭などの大きな行事では、非常にたくさんの地域の方が来校し、学校と一体になった活動をしている。 ◆行事以外の普段の授業や学校の様子を運営協議会の委員をはじめ、地域の方にもっと気軽に見ていただけるような方法を探りたい。 ◆学校評価の充実については、年度末だけでなく、学期ごとのスモールステップの評価改善活動に力を入れたい。 	<p>○運動会、文化祭、収穫祭等、たくさんの参加があり、子どもたちの様子は良く見ることができている。普段の授業等も見られると良い。</p> <p>○地域との連携を密にするため、情報発信についてはこれからも工夫してできる限り充実させていくべきである。</p>

※目標の達成状況の欄のA/B/Cについて

- Aーほぼ達成した(アンケートや実績の結果が80%以上あり、目標がほぼ達成できた。)
- Bーある程度達成(アンケートや実績の結果が50%~80%であり、課題もあるがある程度は達成できた。)
- Cー未達成・課題あり(アンケートや実績の結果が50%未満であり、次年度への大きな課題となっている。)